静坐社旧蔵資料

--- 岡田式静坐法をいまに伝える雑誌『静坐』　他

このガイドでは、国際日本文化研究センター（日文研）図書館が所蔵する静坐社旧蔵資料について、その概要をご案内します。

■ 岡田式静坐法と静坐社

岡田式静坐法は、大正期に一世を風靡した心身修養法のひとつです。一定の呼吸法を保持して丹田に力を込めて座り、姿勢を正しくすることで精神を安定させる、という座禅に近い方法をとっています。

創始者の岡田虎二郎（1872-1920）はこの静坐法の普及のため、1912 年、実業之日本社から『岡田式静坐法』を出版しました。大正年間に民間療法として流行し、政財界、大学関係者・学生、華族などの間で、全国に広く普及しました。

岡田虎二郎が 49 歳で亡くなるとその流行は沈静化しましたが、その後も岡田式静坐法の実践を続けていた人は少なくありませんでした。
そのひとりが、京都・済世病院の院長・小林参三郎でした。小林参三郎は、仏教系慈善病院のさきがけであった済世病院において科学的治療と宗教的治療（仏教信仰、民間精神療法）を併用し、そのひとつとして岡田式静坐法を採用しました。著書に『生命の神秘』（1922）、『自然の名医』（1924）などがあります。

小林参三郎の死後、その妻・小林信子が京都に「静坐社」を設立しました（1927 年）。静坐社は岡田式静坐法の普及と静坐会の主催を中心に、2016 年頃までその活動を続けていました。また創設当初から発行していた雑誌『静坐』は、戦中・戦後の一時期の中断を経つつも、2007 年まで継続していました。

静坐社の拠点は京都でしたが、雑誌『静坐』をすることにより全国の静坐会活動を結びつける役割をも果たしていました。また、宗教者・文学者・学生・知識人による交流・文化的サロンとしても機能していたようです。海外の仏教関係者・日本研究関係者とのネットワークも形成されていました。影響を受けた人物に倉田百三、寿岳文章などがいます。また鈴木大拙は、座禅を習いに来た外国人が苦しがると、静坐社で静坐を学ぶようにすすめた、と言われています。

静坐社の拠点であった京都市左京区・吉田山西麓の洋館は、2016 年 4 月に解体されました。（『京都新聞』. 2016.5.25-2016.5.26.参照）

岡田虎二郎

■ 日文研所蔵の静坐社旧蔵資料

日文研図書館が所蔵する静坐社旧蔵資料は、2010 年、吉永進一・栗田英彦両氏によって整理されたものです。2011 年整理終了後、日文研図書館に寄贈受入されました。その多くは静坐社が設立して以降の資料です。なお、静坐社設立以前、小林参三郎氏が所蔵していた旧蔵書はその大部分が高野山大学図書館に所蔵されています。

国際日本文化研究センター所蔵・静坐社旧蔵資料の概要は下記の通りです。

- 雑誌『静坐』『静坐季刊』(静坐社発行)
- 雑誌 4 タイトル
- 書籍 204 点

■ 雑誌『静坐』

雑誌『静坐』は、静坐社が創設当初 1927 年から発行していたもので、戦中・戦後一時期(1944-1952)には中断しましたが、その後 2007 年まで継続して刊行されていました。

創刊号では「保険と宗教芸術等との関係について攻究し、体験して行きたい」と述べられています。

国際日本文化研究センターが所蔵する雑誌『静坐』は以下の通りです。ほぼ全号をカバーしており他に例のないコレクションとなっています。

『静坐』1-204, 207-303 号(1927.3-1944.2, 1946.6-1961.10)
『静坐季刊』1-180 号(1962.4-2007.7)

静坐社旧蔵資料は、日文研 OPAC で検索可能です。

日文研 OPAC　http://tosho1n.nichibun.ac.jp/

下記のいずれかの方法でご確認ください。

(1) 日文研 OPAC 詳細検索画面で、コレクション名を「静坐社旧蔵」と指定し、任意のキーワード等で検索する。
(2) 日文研 OPAC 文庫リスト画面で、「静坐社旧蔵」をクリックし、全所蔵一覧を確認する。

※別置扱いはしておりません。

■ 参考文献

・笹村草家人.『静坐 : 岡田虎二郎その言葉と生涯』. 無名会, 1974.
・栗田英彦.「国際日本文化研究センター所蔵静坐社資料 : 解説と目録」(研究資料).『日本研究』. 2013, 47, p.239-267. http://id.nii.ac.jp/1368/00000448/
・「静坐社のたそがれ」(ウは「京都」のウ, ファイル 7).『京都新聞』. 2016.5.25-2016.5.26. (「上　近代精神の小宇宙」は 2016.5.25 朝刊、「下　奇跡の軌跡」は 2016.5.26 朝刊)

問い合わせ先:riyou@nichibun.ac.jp